

【主催事業】

聖徳大学楽習フェスタ2011～第13回聖徳大学生涯学習フォーラム～

日 時：平成23年6月11日（土） 12：45～16：30

平成23年6月12日（日） 10：00～16：00

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター

テーマ：ネットワーク～いま、わたしたちにできること～

主 催：生涯学習研究所

共 催：特定非営利活動法人全国生涯学習まちづくり協会

後 援：千葉県教育委員会、松戸市、松戸市教育委員会、市川市教育委員会、取手市教育委員会
柏市教育委員会

協 力：全国生涯学習市町村協議会、聖徳大学オープン・アカデミー

人文学部生涯教育文化学科、児童学部児童学科、生涯学習研究同好会「りりーず」

内 容：6月11日（土）

あいさつ「東日本大震災から学ぶ“克災のまちづくり”を考える」

基調講演「今だからこそ考えるスローライフな生き方」

第1分科会「克災都市コミュニティ～市民と行政の協働システムづくりを目指して～」

第2分科会「克災ボランティア活動～ボランティア同士の絆新生を目指して～」

6月12日（日）

日本を元気にネットワーク（被災地支援、防災を考えるフロア）、子どもネットワーク（子ども向け遊びのフロア）、学習体験ネットワーク（聖徳大学オープン・アカデミー体験）、学生ネットワーク（他大学学生を交えたワークショップ）、松戸ネットワーク（市民団体の活動発表）、コミュニティ・カフェ（歌声喫茶） など

参加者：1日目 108名

2日目 312名

生涯学習研究所は、6月11日（土）・12日（日）の2日間、地域と大学の交流、学生と市民の活動発表の機会を創出することを目的に、「楽習フェスタ2011～第13回聖徳大学生涯学習フォーラム～」を開催した。

今年度は、災害や困難に打ち克つために必要なネットワークのあり方や、被災地復興のために一人ひとりができることを考えようと、「ネットワーク～いま、わたしたちにできること～」をテーマに掲げた。

初日は、福留強生涯学習研究所長の挨拶で幕を開けた。今回の震災を経験して、これからの生活に必要な「生きていくための生涯学習」を「5K」と括ったキーワードで解説した。

続いて、榛村純一さんにご講演をいただいた。榛村純一さんは、1977年から2005年まで、7期にわたって掛川市長を務められ、その間、独自のスタンスでリーダーシップを発揮し、全国で初めて生涯学習都市宣言も行ったことで知られる。今回は活動の中で構築された「スローライフな生き方」、その考え方をご披露いただいた。

講演後、行政と市民、ボランティア同士の連携を考える2つの分科会を行い、各方面でご活躍のパネラーのみなさんに、地震発生時の様子や被災地の現状などを含めて解説していただいた。どちらの分科会も、行政、学校、ボランティア団体の協働や支援のあり方について、参加者も交えて熱心に意見交換された。



2日目は、47名の生涯教育文化学科学生が中心になって企画したブースを各階に設置した。メイン会場の「日本を元気にネットワーク」には、東日本大震災に関連のブースが集合。その中でも、岩手県の名物和菓子、宮城県の地酒、福島の特産アスパラガスをチャリティー販売した「食べて応援！東北ふるさと自慢チャリティー博覧会」が注目を集めた。

このほか、「子どもネットワーク」では、伝承遊び、かえっこバザール、子どもワークショップなどが人気を集め、「学生ネットワーク」では、他大学の学生も交え、社会問題から身の回りの話題まで語り合うワークショップを行った。コミュニティ・カフェでは、懐かしの歌声喫茶さながらに、来場者が一緒に歌って、語らうひとときわ楽しい交流スペースとなり、また、SOA体験講座、松戸ブースは今回も人気を集めた。

この2日間で総額99,000円の販売収益金・募金が集まり、これらは義援金として岩手県・宮城県・福島県の災害対策本部へ送付した。

